

○いただいた意見・質問及びその回答

■発言者1

〈質問①〉

留萌市の財政状況の中で「お金を我慢してきた」という発言があったが、その我慢が解けたら、何を目標にこのまちの市政をやっていくのかをお聞きたい。

〈回答：市長〉

我慢をしてきたという部分については、平成19年、留萌市の財政状況は財政再生計画を立ち上げる近くまで悪化し、本当に市民の皆さんの協力をいただきながら、財政の健全化に努めてきた。

完全にそれがとけるわけではないが、人口減少に伴って一人ひとりが補う負担が増えてくるなかで、持続可能な財政運営というのを目指しながら、なるべく住民負担を多くしないよう進めながら、ライフラインを守っていく。

また、人口減少が進む中でまちの賑わいをなくさないためにも、現在、道の駅周辺エリアに力を入れることによって交流人口や関係人口を増やし、経済の流れを良くしていくことが重点的に行うことだと考えている。

〈質問②〉

予算の問題については理解したが、その先にあるビジョン、目指していくものについてお聞きたい。

〈回答：市長〉

ビジョンを描くということは、5年先なのか、10年先なのか、20年、30年先なのかという議論になってくる。

国の政策等を見合わせながら、進めていかなければならないと思っているが、将来的にこの地域が求められるものは、再生可能エネルギーだと思っている。

再生可能エネルギーが地域の経済を潤すことによって、まちづくりにつながっていくと思っている。

長い歴史の中で2年後に開港90年という港を抱えている留萌市はエネルギー政策のなかで生きてきた港だと考えている。

現在、国が進めていくエネルギー政策が大転換を迎えようとしており、その一助になっていくことによって、地域経済が回ってくる。その結果、まちづくりが進んでいくというビジョンを描いているところ。

〈質問③〉

留萌市地域公共交通計画の中で持続可能な交通という話があったが、その中でどうしてライドシェアが含まれていないのか。

ライドシェアについては、様々な批判の声や問題がありますが、小泉進次郎氏が主

催した超党派でのライドシェア勉強会や北海道でも既存の民間事業者だけではなくて、地方公共団体と協働する格好で実行しているところもあると聞いている。

困っているのであれば、案の1つとして入らないのか。

〈回答：市長〉

ライドシェアについての様々な課題というのがあることも認識し、地域公共交通計画策定の中で、議論をしている。

しかし、現在、運行している交通事業者との関係性も含めて、実施に至ってないという状況。

いずれライドシェアの流れがくるとも考えており、継続的に地域公共交通活性化協議会の中で議論はしていくということでご理解をいただければと思う。

〈要望①〉

わかりにくい、使いにくいを理由にバスを使わずにタクシーを利用している高齢者がいる背景もあるため、高齢者のことを考えるのであれば、ライドシェアの導入も1つのプランだと思うので、積極的に検討していただきたい。